

## 1 研究費補助等の実績

No. 2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
生体適合性ポリマーを伴った骨髄細胞移植による人工胆管の炸裂	宮澤光男	消化器・一般外科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
胃癌・大腸癌の腸管免疫に関与する細胞性免疫担当細胞の病態と機能	村上三郎	消化器・一般外科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究	西川亮	脳神経外科	千円 700	補 厚生労働省 科学研究費 委
希少がん（悪性脳腫瘍）の個別適正化治療のためのTRI (Translational Research Informatics) システムの構築	西川亮	脳神経外科	千円 2,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
希少悪性腫瘍に対する標準的治療の確立のための他施設共同研究	西川亮	脳神経外科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	西川亮	脳神経外科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
良好な視機能温存を目標とした眼部悪性腫瘍の新しい集学的治療法の開発	柳澤隆昭	脳神経外科	千円 11,532	補 厚生労働省 科学研究費 委
上衣腫におけるDNAチップを用いた網羅的遺伝子解析	安達淳一	脳神経外科	千円 1,400	補 文部科学省 科学研究費 委
頭蓋内胚細胞腫瘍の新規腫瘍マーカーの検索と発生機序・治療感受性に関する解析	松谷雅生	脳神経外科	千円 900	補 文部科学省 科学研究費 委
筋ジストロフィー治療のエビデンス構築に関する臨床研究	許俊鋭	心臓血管外科	千円 850	補 厚生労働省 科学研究費 委
胎仔小腸分離細胞の再構築過程における腸管壁内神経細胞遊走のメカニズム	米川浩伸	小児外科	千円 500	補 文部科学省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
良食味の低グルテリン米新品種の実用性評価と生産・流通の確立	菅野義彦	腎臓内科	千円 1,000	補 農林水産省 委
新生児重症心疾患に対する予後向上のためのリアルタイム心エコー動画像による遠隔診断と新生児心疾患救急診療システム確立に関する臨床研究	小林俊樹	小児 心臓科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
先天性高乳酸血症の診断と病因解明に関する研究	大竹明	小児科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村俊英	リウマチ 膠原病科	千円 1,300	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチにおける炎症と動脈硬化	浅沼ゆう	リウマチ 膠原病科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
碎骨細胞を制御する免疫グロブリン様受容体リガンドの同定とその機能解明	佐藤浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 1,600	補 文部科学省 科学研究費 委
コンディショナルノックアウトマウスを用いたTAK1による骨代謝制御機構の解析	佐藤浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 2,752	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者呼吸器疾患の発症・制御に関する遺伝子・蛋白系の解明と治療応用	萩原弘一	呼吸器 内科	千円 7,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド治療法並びにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究	金澤 實	呼吸器 内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
成人喘息の寛解を目指した治療薬の減量・中止に関する研究	永田 真	呼吸器 内科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	永田 真	呼吸器 内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
冠動脈不安定粥腫の同定とその効率破綻予防・治療法の開発に関する他施設共同研究	小宮山 伸之	呼吸器内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
がん生存のQOL向上に有効的な医療資源の構築研究	小林 国彦	呼吸器内科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委
EGFRの変異型細胞、野生型細胞の混合肺癌に対する治療法の細胞生物学的検討	長井 良昭	呼吸器内科	千円 2,000	補 文部科学省 科学研究費 委
ホモ接合指紋法によるCOPD感受性遺伝子の検索	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 10,400	補 文部科学省 科学研究費 委
ゲノム・プロテオーム解析による新規肺癌関連因子の同定と癌病態機構の解明	小山 信之	呼吸器内科	千円 600	補 文部科学省 科学研究費 委
成人気管支喘息患者の重症度等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価方法に関する調査研究	永田 真	呼吸器内科	千円 800	補 環境再生保全 機構 委
生殖補助医療の安全管理及び心理的支援を含む総合的運用システムに関する研究	石原 理	産婦人科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委
臨床研究の実施・成果の高品質化に必要なデータマネジメント教育プログラムの開発及び普及	藤原 恵一	産婦人科	千円 1,800	補 厚生労働省 科学研究費 委
医薬品の使用成績に基づく有効性、安全性の評価方法に関する研究	藤原 恵一	産婦人科	千円 250	補 厚生労働省 科学研究費 委
妊娠子宮脱落膜NK T細胞が認識する糖・リン脂質抗原の同定	鈴木 元晴	産婦人科	千円 1,900	補 文部科学省 科学研究費 委
生殖腺・配偶子保存を中心とした悪性腫瘍患者の妊孕性温存	石原 理	産婦人科	千円 1,500	補 国立成育医療 センター研究所 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
がん患者のQOLの向上をめざした形成外科的治療法の開発	中塚 貴志	形成外科 ・ 美容外科	千円 3,000	補 厚生労働省 科学研究費委 委
開心術後の心臓リハビリテーションが細胞性免疫機構に及ぼす効果に関する研究	牧田 茂	リハビリ テーション科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
脳血管障害患者におけるインスリン抗体性の発現機序に関する検討	間嶋 満	リハビリ テーション科	千円 1,300	補 文部科学省 科学研究費 委
NO及びNO関連物質を応用したヒト骨髄細胞の効果的増殖・骨誘導技術開発	古敷谷 昇	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍科	千円 1,500	補 文部科学省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する研究	土田 哲也	皮膚科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
医薬品の使用成績に基づく有効性、安全性の評価方法に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 250	補 厚生労働省 科学研究費 委
ホルモン補充療法が乳がんの診断に及ぼす影響とその対策に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 10,882	補 厚生労働省 科学研究費 委
効率的かつ効果的ながん専門医の育成方法に関する研究	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 600	補 厚生労働省 科学研究費 委
乳癌患者におけるCEF-MS209療法の有効性と遺伝子発現解析	佐伯 俊昭	乳腺腫瘍科	千円 2,000	補 文部科学省 科学研究費 委
がんの腹膜播種に対する標準的治療法の確立に関する研究	佐々木 康綱	臨床腫瘍科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
抗悪性腫瘍薬を最適化するための臨床薬理学的研究	佐々木 康綱	臨床腫瘍科	千円 1,200	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
臨床研究の実施・成果の高品質化に必要なデータマネジメント教育プログラムの開発及び普及	佐々木 康 綱	臨床腫瘍科	千円 800	①補 厚生労働省 科学研究費 委
効果的かつ効率的ながん専門医の育成方法に関する研究	佐々木 康 綱	臨床腫瘍科	千円 600	①補 厚生労働省 科学研究費 委
末梢血中リンパ球を用いた抗癌剤の治療効果予測システムの開発	市 川 度	臨床腫瘍科	千円 2,200	①補 文部科学省 科学研究費 委
骨・軟骨系におけるNO合成酵素とサーカディアンリズム関連遺伝子の作用解明	安 部 貴 大	歯科・ 口腔外科	千円 900	①補 文部科学省 科学研究費 委
自律神経制御の観点に立った骨リモデリングにおける生物時計の関わり解明	佐 藤 毅	歯科・ 口腔外科	千円 1,700	①補 文部科学省 科学研究費 委
膵管上皮病変の病理学的再検討：特にPanINとIPMNについて	清 水 道 生	病理学	千円 1,100	①補 文部科学省 科学研究費 委
脂肪性腫瘍の発生機構に関する分子遺伝学的解析とその病理診断学的応用	廣 瀬 隆 則	病理学	千円 1,700	①補 厚生労働省 科学研究費 委

計 7

合計 62

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia 21;678-686, 2007	Improvement of criteria for refractory cytopenia with multilineage dysplasia according to the WHO classification based on prognostic significance of morphological features in patients with refractory anemia according to the FAB classification.	松田 晃	血液内科
Cancer Science 98;109-112, 2007	Phase II study of the irinotecan (CPT-11), mitoxantrone and dexamethasone regimen in elderly patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma.	新津 望	血液内科
Laboratory Hematology 12;71-74, 2006	Serum levels of Th1/Th2 cytokines, angiogenic growth factors, and other prognostic factors in young adult patients with hemophagocytic syndrome.	吉田 勝彦	血液内科
内科学 II 1966-1972, 2006	白血球系疾患	別所 正美	血液内科
Int J Hematol 84;432-437, 2006	Human herpesvirus 6 meningoencephalitis in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients.	川井 信孝	血液内科
Leuk Res 30;1105-1112, 2006	Expression of the myeloperoxidase gene in AC133 positive leukemia cells relates to the prognosis of acute myeloid leukemia.	陣内 逸郎	血液内科
Int J Hematol 85;132-139, 2007	Imatinib provides durable molecular and cytogenetic responses in a practical setting for both newly diagnosed and previously treated chronic myelogenous leukemia: a study in nagasaki prefecture, Japan.	陣内 逸郎	血液内科
Hematol Oncol 24;220-226, 2006	Multicenter phase II study of CycloBEAP regimen for elderly patients with poor-prognosis aggressive lymphoma.	新津 望	血液内科
Leuk Lymphoma 47;1908-1914, 2006	Multicentre phase II study of the baseline BEACOPP regimen for patients with advanced-stage Hodgkin's lymphoma.	新津 望	血液内科
Cancer Sci 97;933-937, 2006	Phase II study of the CPT-11, mitoxantrone and dexamethasone regimen in combination with rituximab in elderly patients with relapsed diffuse large B-cell lymphoma.	新津 望	血液内科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leuk Res 31;1199-1205, 2006	Prognostic impact of chromosomal alteration of 3q27 on nodal B-cell lymphoma: Correlation with histology, immunophenotype, karyotype, and clinical outcome in 329 consecutive patients.	新津 望	血液内科
埼玉医科大学雑誌 33;73-76, 2006	悪性リンパ腫における新規予後因子nm23の発現動態の検討	新津 望	血液内科
Leuk Res 31;103-104, 2007	Differences in epidemiology of MDS between Western and Eastern countries: Ethnic differences or environmental influence?	松田 晃	血液内科
Eur J Haematol 78;213-219, 2007	Severe hemorrhagic complications during remission induction therapy for acute promyelocytic leukemia: incidence, risk factors, and influence on outcome.	矢ヶ崎 史治	血液内科
Leuk Lymphoma 247;2062-2069, 2006	Treatment of acute myeloid leukemia patients aged more than 75 years: results of the E-AML-01 trial of the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group (JELLSG).	矢ヶ崎 史治	血液内科
Eur J Clin Pharmacol 62;765-772, 2006	Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan.	太田 慎一	消化器内科・肝臓内科
Dig Dis Sci 51;1525-1531, 2006	Clinical response is associated with elevated plasma interleukin-1 receptor antagonist during selective granulocyte and monocyte apheresis in patients with ulcerative colitis.	太田 慎一	消化器内科・肝臓内科
Intervirolgy 50;181-189, 2007	Full-length sequences of two hepatitis E virus isolates representing an Eastern China-indigenous subgroup of genotype 4.	持田 智	消化器内科・肝臓内科
プラクティス 23;321-325, 2006	2型糖尿病患者におけるヒトインスリン混合製剤から二相性インスリンアナログ製剤ノボラピッド30ミックスへの切り替えの有用性	栗原 進	内分泌内科・糖尿病内科
Metabolism 55;935-939, 2006	Acarbose improves fibrinolytic activity in patients with impaired glucose tolerance.	井上 郁夫	内分泌内科・糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 91;3138-3143, 2006	Evidence for the role of small ubiquitin-like modifier 4 as a general autoimmunity locus in the Japanese population.	栗田 卓也	内分泌内科・糖尿病内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Med Genet A 140;586-593, 2006	Systemic search for single nucleotide polymorphisms in a lymphoid tyrosine phosphatase gene (PTPN22): Association between a promoter polymorphism and type1 diabetes in asian population.	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 91;1087-1092, 2006	The Association of CTLA4 Polymorphism with Type 1 Diabetes Is Concentrated in Patients Complicated with Autoimmune Thyroid Disease:A Multicenter Collaborative Study in Japan.	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
Q&Aでわかる肥満と 糖尿病 6;180-181, 2006	糖尿病網膜症の体質とは?	栗田 卓也	内分泌内科・ 糖尿病内科
Metabolism 55;946-952, 2007	Acarbose ameliorates atherogenicity of low-density lipoprotein in patients with impaired glucose tolerance.	井上 郁夫	内分泌内科・ 糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun 351;595-601, 2006	LKB1, an upstream AMPK kinase, regulates glucose and lipid metabolism in cultured liver and muscle cells.	犬飼 浩一	内分泌内科・ 糖尿病内科
Hypertens 24;403-408, 2006	Preventing microalbuminuria in patients with diabetes: rationale and design of the Randomised Olesartan and Diabetes Microalbuminuria Prevention (ROADMAP) study.	片山 茂裕	内分泌内科・ 糖尿病内科
Hypertens Res 29;523-532, 2006	Treatment with Hypotensive Agents Affects the Impaired Relaxation of the Penile Corpus Cavernosum in Hypertensive Rats.	牛山 正行	内分泌内科・ 糖尿病内科
Int Immunol 18;1473-1485, 2006	A BAFF antagonist suppresses experimental autoimmune encephalomyelitis by targeting cell-mediated and humoral immune responses.	富岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
発汗学 14;26-28, 2007	Complex regional pain syndrome I における精神性発汗、軸索反射性発汗の検討	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Cephalalgia 26;752-753, 2006	Daily morning hemifacial spasm in a patient with cluster headache.	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Neurosci Lett 402;142-144, 2006	Effect of L-DOPA on nitric oxide production in striatum of freely mobile mice.	糸川 かおり	神経内科・ 脳卒中内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurosci Lett 403;63-67, 2006	Enhanced neurogenesis in the ischemic striatum following EGF-induced expansion of transit-amplifying cells in the subventricular zone.	二宮 充喜子	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 46;550-554, 2006	Reversible posterior leukoencephalopathy syndromeを呈した橋本脳症の1例	加藤 裕司	神経内科・ 脳卒中内科
J Neurosci 26;6627-6636, 2006	Subventricular zone-derived neuroblasts migrate and differentiate into mature neurons in the post-stroke adult striatum.	二宮 充喜子	神経内科・ 脳卒中内科
Geriatric Medicine 44;1740-1744, 2006	パーキンソン病におけるカテコラミン代謝とMIBG心筋シンチグラフィの検討	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
神経内科 65;207-208, 2006	眼で見る神経内科 筋萎縮性側索硬化症に認められた限局性浮腫	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
脳卒中 28;505-509, 2006	脳卒中の診断・治療における画像診断の進歩 テント上Branch atheromatous disease(BAD)の画像所見と予後	溝井 令一	神経内科・ 脳卒中内科
神経治療学 23;655-659, 2006	副鼻腔炎・海綿静脈洞炎による脳神経障害で発症し、髄膜炎、肺血症、深頸部感染症からtoxic shock like syndromeをきたした劇症型C群様連菌感染症の1例	富岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
Brain Res 1108;221-223, 2006	A561C polymorphism of E-selectin is associated with ischemic cerebrovascular disease in the Japanese population without diabetes mellitus and hypercholesterolemia.	棚橋 紀夫	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 46(9);652-654, 2006	両側視床病変による意欲低下、見当識障害で亜急性発症した直静脈洞血栓症の1例	中里 良彦	神経内科・ 脳卒中内科
Brain Res 1121;246-249, 2006	G501C polymorphism of oxidized LDL receptor gene (OLR1) and ischemic stroke.	棚橋 紀夫	神経内科・ 脳卒中内科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 49-50, 2006	3画面同時録画による喉頭鏡視野の比較検討システム	岩瀬 良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 51-52, 2006	X-port™によるシリアルデータのイーサネット変換とその利点について	岩瀬 良範	麻酔科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
麻酔・集中治療とテクノロジー2004 61-63, 2006	ヘッドマウントディスプレイと超小型CCDによる目視視野モニタリング	岩瀬良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2005 53-56, 2006	高機能患者シミュレータによる臨床実習の工夫 いかにより学生を本気にさせるか	岩瀬良範	麻酔科
麻酔・集中治療とテクノロジー2004 70-72, 2006	直接CCD方式ビデオ喉頭鏡	岩瀬良範	麻酔科
老年精神医学雑誌 18;61-67, 2007	99mTc-ECD-SPECTを用いた早発性および晩発性アルツハイマー病局所脳血流の比較検討	松田博史	放射線科
Nucl Med Commun 28;199-205, 2007	An easy Z-score imaging system for discrimination between very early Alzheimer's disease and controls using brain perfusion SPECT in a multicentre study.	松田博史	放射線科
Neuroimage 33;218-226, 2006	Changes in cerebral glucose utilization in patients with panic disorder treated with cognitive-behavioral therapy.	今林悦子	放射線科
Heart Vessels 23;79-87, 2007	Delayed enhancement on CT in abdominal aortic aneurysm wall.	木村文子	放射線科
J Neurophysiol 95;2293-2303, 2006	Effect of benzodiazepine hypnotic triazolam on relationship of blood pressure and Paco <sub>2</sub> to cerebral blood flow during human non-rapid eye movement sleep.	今林悦子	放射線科
Osteoporosis Japan 14;161-162, 2006	MRIによる圧迫骨折の質的診断	小澤栄人	放射線科
Brain Lang 100;276-282, 2007	Neural correlates for learning to read Roman numerals.	今林悦子	放射線科
J Deaf Stud Deaf Educ 11;144-152, 2006	Neural correlates for numerical processing in the manual mode.	今林悦子	放射線科
福島県IVR研究会雑誌 11;1-4, 2007	レーザー血管形成術と異常筋腱切離術を施行後長期(17年)フォローアップし動脈開存を確認した膝窩動脈捕捉症候群の1例	田中淳司	放射線科
臨床放射線 51;1227-1230, 2006	腫瘍内出血を合併した後腹膜 gastrointestinal stromal tumorの1例	水越和歌	放射線科

計 13

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
福島県IVR研究会 雑誌 11;33-38, 2007	腎血管性高血圧のIVRによる治療	田中淳司	放射線科
Anticancer Res 26;3421-3428, 2006	Inhibition of poly (ADP-ribose) polymerase as a protective effect of nicaraven in ionizing radiation- and ara-C-induced cell death.	關根 広	放射線科
埼玉医科大学雑誌 33;19-23, 2006	副腎腺腫のCT値とMRI信号評価の検討	小澤 栄人	放射線科
Gastric Cancer 9;262-270, 2006	A multicenter retrospective study of endoscopic resection for early gastric cancer.	大谷 吉秀	消化器一般外科
J Surg Oncol 93;68-71, 2006	A new laparoscopic-assisted hepatectomy (LAH) utilizing radiofrequency ablation and high-frequency electrocauter.	宮澤 光男	消化器一般外科
World J Surg 31;383-394, 2007	Clinical significance of large Tenascin-C spliced variant as a potential biomarker for colorectal cancer.	竹田 明彦	消化器一般外科
J Surg Oncol 93;72-75, 2006	Extended right hepatectomy for hilar cholangiocarcinoma with resection of the left hepatic duct prior to hepatic resection.	宮澤 光男	消化器一般外科
J Clin Pathol 59;890-891, 2006	Gastric carcinogenesis after long-term observation of clinical course without any treatment in a patient with attenuated familial adenomatous polyposis.	竹田 明彦	消化器一般外科
Surgery 141;124-125, 2007	Plasma large Tenascin-C spliced variant as a possible biomarker for the prediction of recurrence in colorectal cancer.	竹田 明彦	消化器一般外科
Organ Biology 13;153-160, 2006	Tissue engineeringを応用した胆管再生療法の開発—生体吸収性ポリマーを利用し肝外胆管を再生させることが可能である—	宮澤 光男	消化器一般外科
J Clin Gastroenterol 40;555-557, 2006	$\alpha$ -Fetoprotein-producing Clear Cell Carcinoma of the Extrahepatic Bile Ducts.	宮澤 光男	消化器一般外科
手術 60;1723-1727, 2006	ラジオ波焼灼を利用した腹腔鏡下肝切除術	宮澤 光男	消化器一般外科

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。